

平成28年度JICA課題別研修 「アフリカ地域 稲作振興のための中核的農学研究者の育成」

本年は第2フェーズ3年間の2年目として、6月29日～8月5日、JISNAS会員大学の協力を得て実施されました。サブサハラアフリカ諸国のうち12ヶ国より15名が来日し、コア研修として稲作に関わる基礎的な知識や技術、PCM手法、日本における稲作振興のための技術開発と政策の関係等、名古屋大学フィールド教育科学センター東郷フィールドにて圃場の見学、稲作の機械化に関する講義と実習を行いました。また、愛知県新城市の四谷千枚田を見学し、我が国の伝統的な棚田に触れることもできました。その後、全国の7つの協力大学に移動し、受入教員の指導を受けながら専門性を高めた上で、締めくくりとして研究を効果的に進めるためのリサーチプラン立案に関するワークショップとリサーチプラン発表会を開催し、JICA筑波所管の別のアフリカ稲作研修も交え、協力大学の教員とともに活発な議論を展開しました。引き続き、研修員と教員のネットワーク、各国のCARD関係者も含めたコンソーシアムを構築し、研修員のフォローアップ、日本への留学や受入教員による現地指導、日本とアフリカの共同研究等も視野に入れた活動を推進していきたいと考えています。(江原 宏)

参加国：ブルンジ、コンゴ民主共和国、エチオピア、ガーナ、ケニア、モザンビーク、ナイジェリア、シエラレオネ、スーダン、タンザニア、ウガンダ、ザンビア

協力大学：岩手大学農学部、山形大学農学部、茨城大学農学、島根大学生物資源科学部、山口大学農学部、宮崎大学農学部、鹿児島大学農学部、名古屋大学大学院生命農学研究科



JICA筑波国際センターでの修了式

国際シンポジウム参加報告

2016年7月23日にインドネシア・マカッサルのハサヌディン大学で開催された国際サゴシンポジウム、10月25・26日にマレーシア・クチンのマレーシア・サラワク大学で開催された第3回ASEANサゴシンポジウム、11月9・10日にインドネシア・ボゴールの農業研究所で開催されたナショナルサゴセミナー・ワークショップ2016にサゴヤシ学会会長として出席しました。国際シンポジウムでは、サゴヤシ学会設立より24年余にわたる取り組みから、2013年にFAOの始動の下で設置されたアジア太平洋サゴネットワーク(SNAP)の活動などの紹介、ASEANシンポジウムではサゴヤシ学会とマレーシアの大学とのMOUや多国間での研究教育連携について、また、インドネシアのセミナーでは泥炭開発などに関わる産官学地域の諸機関・団体と国際連携についての意見交換を行うことができました。(江原 宏)



国際サゴシンポジウムにおける招待講演者、スラウェシの4首長と在マカッサル日本領事事務所長

博士号の取得、そして更なる夢に向かって

ワイナイナ・コーネリアス・ムバティ

2013年10月に、JST・JICA地球規模課題対応国際科学技術協力(SATREPS)「テラーモード育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト」枠の国費留学生として名古屋大学大学院生命農学研究科へ入学し、3年を経て、この9月に博士号を取得しました。この間、一貫してイネの耐寒性に関する研究を行い、イネの栽培・育種に関わる科学技術を学ぶとともに、ケニア高原地帯の低温に耐えうる有望系統の育成を成し遂げることができました。私の留学を支えて頂きました農国センター、生命農学研究科、生物機能開発利用研究センターの教職員、院生の皆さま、および愛知県農業総合試験場の研究者の方々に、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。博士号の取得は、今後の私の研究者・教育者人生にとってこの上もなく偉大なことであり、ケニア、さらにはアフリカの食料問題解決を牽引するイネ研究の第一人者となるべく、これからも一生懸命努力します。今後も農国センターをはじめとする日本との協力関係のもと、ケニアでのイネ開発研究センターの設立に向け、大いに貢献できるよう邁進していきます！



略歴 1983年ケニア生まれ。2006年ジョモケニヤッタ農工大学卒業、同年にジョモケニヤッタ農工大学Assistant lecturerに採用される。2012年名古屋大学大学院生命農学研究科修士課程修了、2016年名古屋大学大学院生命農学研究科博士課程修了、博士(農学)を取得し2016年よりLecturer。